

## 「外務省」との出会い

平成28年8月  
外交実務研修員 小林篤  
(岐阜県より派遣)

### 1 はじめに

平成27年新春。岐阜県東京事務所の職員として、都内の様々な企業に岐阜県をPRして回っていたとき、県人事課から一本の連絡。それは、外務省派遣への打診でした。外務省派遣を経験した尊敬する県職員の先輩から、「外務省は刺激的なところだよ」と背中を押してもらいました。

そして、今から約1年半前の平成27年4月に岐阜県から外務省に派遣され、アジア大洋州局北東アジア課経済班（日韓経済室）で勤務しています。外交（がいこう）の「が」の字も理解していなかった私ですが、皆さまに「ゼロ」から仕事を教えていただきながら、ここまでなんとか過ごすことができました。

### 2 北東アジア課・日韓経済室について

配属先であるアジア大洋州局北東アジア課は、日本と朝鮮半島（韓国及び北朝鮮）間の外交を担当している課です。拉致問題や竹島問題といった極めて重要な外交課題を扱っているところであり、果たして私に務まるのかどうか不安な気持ちでいっぱいだったことを覚えています。



写真提供 内閣広報室

私が配属された経済班（日韓経済室）は、主に日韓間の経済事案を担当している班です。皆さんは、慰安婦問題や竹島問題をご存じだと思いますが、「日韓の経済事案」と言われたら何を思い浮かべますでしょうか。例えば、水産物等の輸入規制。韓国は、2011年の東日本大震災以降、東北を中心とした8県からの水産物の輸入を禁止しており、これら8県の水産物を韓国に売ることのできない状態が続いています。こうした規制の撤廃や、韓国国民の風評被害の払拭に向け、関係省庁や関係団体と協力して、韓国政府に働きかけていくのが経済班の役割の1つです。

赴任直後、日韓の環境協力を議論する「日韓環境保護協力合同委員会」の準備や、日韓の大企業の経営陣が一堂に会する「日韓経済人会議」での安倍内閣総理大臣のメッセージ発出など、立て続けに重要業務に直面しました。業務の

基礎知識や仕事の進め方が全くわからない状態で、身も心も混乱した状態でしたが、周囲の皆さまに助けていただいて、なんとか乗り越えることができました。この「日韓環境保護協力合同委員会」は平成28年の7月にも開催され、担当として初めて韓国に出張する機会を得ました。こうした会議に臨むに当たっては、関係課や関係省庁と調整し、どういう議題にすべきか、日本政府として発言すべき内容は何か、誰から発言してもらうか、相手国がこう発言してきたらどう切り返すか・・・など、事前に準備することがたくさんあります。会議というものはこうして作られるのかと、ひとつひとつが新鮮でした。

また、私が赴任した平成27年は日韓国交正常化50年の節目でした。3年半ぶりに日韓首脳会談が開催され、また、慰安婦問題が合意に至るなど、非常に大きな動きがありました。そうした外交のダイナミックな動きを間近で見ることができたのは幸運としか言いようがありません。

### 3 外務省職員の意識と能力の高さ

外務省職員の皆さまの意識と仕事能力の高さには驚愕し、感銘を受けました。「自分が日本の外交を背負っているんだ」という使命感が強く、長時間労働のものともせず働いており、ここまで仕事に対する意識が高い職場は見たことがありません。自分と同年代の職員が、重大な外交課題を担当し、日夜問わず徹底的に各省庁と調整し、物怖じすることなく上司や幹部を説得し、官邸や国会議員への説明に駆け回る姿には心底圧倒されると同時に、自分の視野の狭さを痛感し、仕事に向き合う姿勢と意識を考え直させられました。

### 4 最後に

外務省での外交実務研修員としての研修は、本省2年及び在外公館2年の計4年間です。まだ半分も終わっていないので、知ったようなことを言える立場にありませんが、本省では地方公務員では決して経験できないことをさせていただいたので、これからの在外公館での勤務もたくさんの刺激があるのだろうと思います。このような大変貴重な機会を与えてくださりました、岐阜県の関係者の皆さまに心から感謝しております。正直なところ、この1年半は助けてもらうばかりで情けない結果に終わってしまいましたが、残りの期間でしっかりと外務省からしか学べないことを学び、今後の岐阜県の業務に活かすために、ひとつひとつしっかりと向き合っていきたいと思います。